



## 大学図書館職員長期研修について

田中 成直

平成14年10月の図書館情報大学との統合により、標記の研修を本学と文部科学省との共催で開催することとなった。この研修について紹介する。

この研修は、昭和44年に第1回目が文部省と図書館短期大学との共催により、図書館短期大学などを会場として開催された。当初は「大学図書館専門職員長期研修」と呼ばれていたが、昭和46年に専門の二字を削除し現在の名称になった。

研修の目的は、「大学における教育・研究活動の急速な発展に伴い、大学図書館が、利用者に必要とされる図書館資料および学術情報を、的確、迅速かつ網羅的に提供することの重要性がますます高まっている。このためには、利用者の高度な要求に即応した体制を整備する必要がある、その一環として図書館業務の合理化、標準化および機械化による能率向上と、積極的に行う書誌的情報の提供等のサービスの質的改善を図らねばならない。(中略)これらに必要な最新の知識および技術を、相当の経験を有する図書館職員に習得させ、その資質の向上を図り、大学図書館の近代化を促進する。」こととなっており、現在とは多少文言は違うが、基本は変わっていない。

受講資格は、大学図書館において専門的業務に10年以上従事した経験を有し、おおむね40歳以下の図書館職員で、定員は30名であった。昭和47年からは公私立大学図書館職員への枠を広げ、毎年40名前後の受講生を受け入れてきた。

研修は、毎年夏の暑い時期に合宿形式で行われてきた。昭和44年は3週間、昭和45年から昭和54

年までは約4週間、昭和55年からは現在の3週間の日程になった。また、昭和54、55年は図書館短期大学が図書館情報大学に昇格・移転した時期に当たり、東京大学と東京学芸大学がそれぞれ事務を担当し、昭和56年から昨年まで図書館情報大学が担当してきた。

講義要綱\*が毎年作成されており、その年にはどのような講義・実習・グループ討議・見学が行われてきたかが分かる。昭和40年代、50年代は大学図書館業務の機械化やインフォメーション・サービス(特にレファレンス・サービス)について、最近では電子図書館やインターネットについて相当な時間が割かれている。講義内容は毎年見直されており、その年の課題等に対応したテーマが選ばれている。

本研修は35年の歴史の中で、多くの図書館職員を育ててきた。特にここで培われた人間関係はその後の図書館活動でも十分に生かされていると仄聞する。国立大学図書館協議会でも、今後とも必要な研修として位置づけられており、来年度以降も受講生からのアンケート等をもとに、カリキュラム等の一部見直しを行いながら、本学と文部科学省との共催で実施する計画である。

詳しくは以下のページをご覧ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken>

\*図情図書館で所蔵  
(たなか・しげなお 図書館部情報サービス課長)